



今宮神社付け祭、勇壮な屋台の繰り込み風景



9 号

栃木県神社庁
 教化委員会
 宇都宮市八幡台14-24
 印刷所
 株式会社 井上総合印刷
 028(661)4723

今宮神社の屋台行事

国重要無形民俗文化財の

指定を受ける



平成十五年

一月十七日、

『鹿沼今宮神社祭の屋台行事』が国の重

要無形民俗文化財の指定を受けた。それに伴い三月二十六日、「鹿沼いまみや付け祭り保存会」（指定団体）では福田保雄保存会長、今宮神社宮司（下妻良夫）ほか数名の役員が認定証書授与式に臨み、他の三指定団体と共に河合文化庁長官より直接交付された。同保存会では地元祭典関係者・来賓を招き、去る五月十八日式典・記念講演会並びに祝賀会を盛大に開催した。

今宮神社は天文三年（一五三三年）旧鎮座地の御所の森から現在の社地に遷座され、以来鹿沼の総鎮守として今日に至っている。

雑木によせて



栃木県神社庁
庁長 吉田 健彦

今、鎮守の森が注目されている。森や林がその地方の風土の特色をかもしだしている。そこに織りなす人々の生活は自然と共に生き、その中から自然界に対する畏敬の念が目醒め神聖さを醸成し、安らぎのひと時を与え、精神的にリフレッシュさせてくれる効能が、杜に存在すると信じられている。

社会の急速な変化により、我々の眼前から林や森が消滅しつつある事を、凝視せねばならない現今、失われた事により、人々の生活にも、情緒不安定による社会治安の悪化、青少年による非行等とを重ね合わせると、ここに因果関係が存在しているのではないかと思う。自然の四季の移り変わりは、日本人の感情を育み、伝統文化を守り、神社の祭りが四季の変化と共に繰り返し繰り返し継承されてきている。

最近、国際生態学センター研究所の宮脇昭所長が鎮守の森の大切さを提唱され、「ふるさとの木による、ふる

さとの森づくり」の運動を展開している。その土地本来の木による森づくりであり、そこに植生する本命の木の実より苗木を育成し、その樹種はタブ・カシ・ヤマザクラ・イロハモミジ等が多く、苗木を密植・混植する方法で、日本の各地で運動がなされている。戦後荒廃した山々の植林は杉・桧・松が主流をなしていたが、ここで森づくりに欠くことの出来ない自然林の姿であり、自然に自生する木々こそ鎮守の杜を覆う境内林であり、神奈備の本来の姿なのであろう。「人々は鎮守の森周辺に後々の為にと思い修理用材としてあるいは地域の象徴として、スギ・ヒノキ・マツが植えられ、老木が今でも残されているところが多い日光や箱根の杉並木などはその典型である。」と宮脇氏は指摘している。これに呼応するこの如く社叢学会が設立され、日本の森を多角的に研究されることは真に喜ばしく「車窓」から生れた学会であると秩父神社の園田稔宮司が話されている。各地に旅をし、車窓から眺める森のたまたまに興味が湧いて来る車内で、駅弁を食しながらの車窓からの景色は格別である。駅弁の発祥地は宇都宮駅と聞いている。これも杜づくりの一端を担っているのか「木の実の本へ」もう一度群がり生える場所から、茂り立つ神奈備の原点に戻る事が今、我々に課せられているのではないか。雑木と云う言葉を口にしないよう心がけたいものだ。

(日光二荒山神社宮司)

益子町鹿島神社 新町屋台の新調

益子町新町自治会長 牟田 紀一



復元された黒漆塗彫刻屋台

平成十一年七月、不慮の失火により新町彫刻屋台が焼失をいたしました。江戸末期文化十四年宇都宮押切町の屋台として建造され、明治十三年同町より買い求めたものであります。以来百二十余年益子祇園祭の付け祭として毎年巡行してきました。新町自治会会員はもとより、多くの人々に親しまれてきた屋台を私共の世代で失ったことは非常に残念なことであります。先人の遺してくれたこの文化遺産の存在と意義は計り知れない大きなもので、時には夢を、ロマンを与えてくれました。そして巡行するその雄姿は誇りであり、まさに新町自治会の心を一つにするシンボルの存在でありました。

そこで、新若・新町お囃子会から再建の声が上がり、屋台建設調査委員会を設置し、調査検討を重ねてきました。次に建設委員会を設立し、厳しい社会状況でありましたが、再建への熱き想いを胸に抱き、総力を挙げて邁進をいたしました。その行動と実績が益子町内外の多くの支援者からも賛同を得て、三年余の歳月を要し、この度、江戸期の宇都宮型屋台の特徴を余すところなく継承した「黒漆塗新町彫刻屋台」として復元完成をいたしました。

平成十五年七月竣工

(鹿島神社総代)

今こそ言挙げを

栃木県神社総代連合会

会長 塚本 美代次



神社は日本人の生活の中に定着し、永い歴史の中で神社を中心とした地域の振興と発展が行われて参りました。戦後神道指令により宗教法人になり、現在の神社界の全国組織がつくられたのであります。この神社の大

きな変革は、日本人の考え方も、戦後の占領政策によって大きく変化させられ、ややもすると日本人自体の民族精神も変わろうとしております。昭和二十七年講和条約が締結され、独立国家として歩み初めたのであります。占領政策による政教分離の思想は依然として残り、日本の進路に対して、いちまつの不安を感じたのであります。が、世界に於ける苛酷な経済戦争を乗り越えて、新しき分野を切り開き、経済大国日本になり得たことは、日本人の優秀さを発揮した賜であると信じております。然し反面日本人の心の豊かさが歪められて来たことも、現実の問題であります。神道は「言挙げせず」と、昔の歌人のうたにありましたが、今こそ総てが大きく変化した中で、神社の重要な事を言挙げして、日本の卓越した歴史を、一日も早くわれわれ国民全体が理解してゆくこと

が肝要であると思うのであります。

『神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培い太平を開くの基である』と神道の理念を、総ての集合の場で唱和しておるにも拘らず、国民一般の中で今だに浸透しておらないことは、誠に寒心の極みであります。神社界は神宮を本宗と仰いで全国八万の神社が、それぞれの地域の発展と振興に力をそそいでおります。然るに神宮大麻領布については、八年間も減体しておることを知らされ、この現実は何に起因しているかと考えさせられた。他方、経済界が国際的に厳しい中で繁栄している会社の現況に目をうつしてみると、社員教育の実践に力を入れて、愛社心を高めてきた結果であることが判明したのであります。神社界もこの厳しい現実を見習い、神職の教化活動をしっかり実行し、神職としての自覚と誇りをもって氏子、崇敬者に対応し、よき相談相手となつてこそ眞の隆昌があるものと信じます。

現在の内外情勢をみた時に、イラク戦争・北朝鮮の核開発の問題、テロとの戦い等幾多の問題を抱えております。また経済界に於いても、急速な技術革新による開発・不良債権の処理問題等、又新型肺炎の新しき病原体の蔓延等深刻な問題が山積してきております。これ等に対応すべく神社界の責務は「重」且つ「大」であります。全国二万二千の神職を中心として、氏子崇敬者が一体となつて今こそ言挙げして日本人の心をとり戻し、邁進してゆく時が来たものと確信したのであります。

受賞者紹介

平成十四年度神社本庁規定表彰者

◎規定表彰第三条第二号該当者

貴下は敬神の念篤く多年の間神徳の発揚に意を注ぎ神社の経営を援け斯道のために多大の貢献をなされたことは氏子崇敬者の亀鑑といふべきであります。仍って表彰規定に基いて審査委員会の審査を経てここに表彰状を呈しその功績を顕彰します。

平成十五年二月三日

神社本庁総裁 池田 厚子



豊田 徳氏 芳賀郡二宮町横田五八八一
 一 番地。大正八年四月二十一日生。満八十
 三才。大前神社責任役員。敬神の念篤く、
 総代・役員として宮司を助け、大前神社、

地元星宮神社に永く神社の興隆に貢献している。又大麻領布
 その他の神社の行う責務を熱心に且つ十分に果し、多額の浄
 財を寄付していただいた。



川又十一氏 鹿沼市上殿町一六六一一七
 番地。大正十一年三月五日生。満八十才。
 押原神社責任役員。川又家は元来神道家家庭
 であり氏子総代に就任以来二キロメートル
 以上も離れているにもかかわらず毎日社参し清掃は無論のこ
 とと花壇を作り花を植えるなど常に境内は整然と保たれ、氏子
 崇敬者の模範たる敬神家である。



安藤信三氏 那須郡黒羽町大字前田四二
 番地。大正十三年十二月十五日生。満七十
 八才。飯綱山神社責任役員。素より崇敬の
 念篤く、氏子崇敬者の代表として総代に就
 任以来現在に至る迄、永きに亘り神社の護持及び運営に対し
 て大きく寄与されている。常に宮司の協力者として神社を支
 え、御神徳の発揚に心掛けて居り、二百六十戸の氏子と神社
 との結びつきを大切にしその連携をさらに深め、氏子崇敬者
 へ教化育成等の活動等にも大いに力を入れ、各種研修、講習
 会へ積極的に参加し、正に神社役員としての任務を全うして
 いる。

殊に昨年からは氏子の全面的な協力の下、夏越大祓に茅の
 輪くぐりを齋行し、氏子の約半数の参拝をみている。

現在は、北那須郡市総代会副会長、北那須地区神社総代会
 第三支会会長等の要職に就かれ、斯界の為に大いに活躍して
 いる。

平成十四年度全国神社総代会表彰者

◎表彰規則第二条第一号該当者

あなたは敬神の念篤く多年神徳の宣揚に意を注ぎ神社の経営を扶け斯道のために多大な貢献をなされましたこのことは氏子崇敬者の亀鑑といふべきであります。よつて表彰規則に基づき記念品を贈呈してその功績を顕彰します。

平成十四年十月八日 全国神社総代会長 山口 信夫



宮澤榮一氏 真岡市東郷八一八番地。大正十三年三月十九日生。満七十八才。大前神社副総代会長並びに、神政連芳賀支部長として神社の護持運営に貢献している。



稲葉裕造氏 日光市匠町三一番一五号。昭和二年十一月三日生。満七十四才。

二荒山神社巴会々々長として鎮座千弍百年祭に貢献する。又幹事及幹事長として神徳宣揚に協力、神社発展に寄与した。さらに、総代及責任役員として神社の経営に協力し功績顕著、例祭弥生祭付祭保存会長として、祭祀及伝統行事の保存に寄与した。

神宮大麻全国頒布百二十周年記念表彰者

あなたは夙に神宮崇敬の念篤く多年に亘り能く神職を扶けて神宮大麻の頒布向上に尽力され優秀な成績を収められましたこれは他の亀鑑であります。仍て神宮大麻全国頒布百二十周年の嘉年にあたり記念品を贈り表彰します

平成十四年九月十七日 神宮大宮司 北白川 道久



森高總子氏 黒羽町田町婦人防火クラブ会長。那須郡黒羽町大字黒羽田町五六八番地。昭和十九年八月二十二日生。満五十八才。以前は宮司及び総代が各家庭を訪問し頒布を行っておりましたが、平成三年度より氏子、崇敬者に協力を戴く為、組長さんの奥さんで組織する婦人防火クラブに頒布を依頼しております。現在田町の戸数が二百四十戸のうち、宗教上の理由で大麻を受けない家庭が約十パーセント。大麻頒布率は約七七パーセントと大いに貢献しております。



高岡 林氏 栃木市川原田町一、一一五番地。大正十五年九月二十五日生。満七十五才。鹿嶋神社責任役員。神社の護持に卓越した力を発揮し、神社の役員として人々に

神宮大麻の大切さ、尊さを唱へ、わずか数百数十体の頒布数だったが、短い期間で、五百体余りまで増体させた功績は誠に顕著であります。

平成十四年度
栃木県神社庁臨時表彰受賞者

永年奉仕にて受賞された方々

釜井 恒次	宇河	平出神社役員	宮司	江部 修一	半沢 榮	北那須	温泉神社総代	宮司	人見 昇三
鮎沢 義行	宇河	平出神社役員	〃	〃	細谷 兼久	北那須	温泉神社総代	〃	〃
手塚清一郎	宇河	高麗神社役員	〃	〃	猪瀬 喜夫	北那須	経塚稲荷神社役員	宮司	宇賀神直人
阿久津理一	宇河	高麗神社役員	〃	〃	増山 勝衛	北那須	愛宕神社総代	宮司	大山 廣史
佐藤 肇一	宇河	高麗神社役員	〃	〃	澤村 栄吉	上都賀	愛宕神社総代	〃	〃
阿久津昭司	宇河	高麗神社役員	〃	〃	石澤 倉二	上都賀	押原神社役員	宮司	下妻 良夫
手塚 秋夫	宇河	高麗神社役員	〃	〃	高橋弥次右衛門	上都賀	報徳一宮神社役員	宮司	武内 節吏
齋藤 精一	宇河	高麗神社役員	〃	〃	福田 知有	上都賀	星宮神社役員	宮司	増淵 文男
神戸 正士	宇河	稲荷神社役員	〃	〃	加藤 昌重	上都賀	星宮神社役員	〃	〃
海老原作次郎	宇河	星宮神社総代	宮司	小嶋 教敬	須賀 秀一	上都賀	高麗神社役員	〃	〃
永井啓二郎	宇河	八幡宮総代	〃	〃	中村 政男	上都賀	高麗神社役員	〃	〃
馬場 繁雄	宇河	八幡宮総代	〃	〃	渡辺 進	上都賀	瀧尾神社役員	〃	〃
佐伯 義郎	宇河	八幡宮総代	〃	〃	増淵 忠弘	上都賀	瀧尾神社役員	〃	〃
大門 康人	宇河	八幡宮総代	〃	〃	加藤 明	上都賀	高麗神社役員	〃	〃
野口 富夫	宇河	春日神社総代	〃	〃	江連 誠一	上都賀	高麗神社役員	〃	〃
中田 純	芳賀	千代ヶ岡八幡宮役員	宮司	堀口 邦夫	大橋 武雄	上都賀	大宮神社総代	宮司	若松 延雄
菊池 早苗	南那須	鷲子山上神社総代	宮司	長倉 樹	高久 延雄	上都賀	大宮神社総代	〃	〃
藤沢 義弘	南那須	三和神社役員	宮司	西山 政典	狐塚 宏一	上都賀	大宮神社総代	〃	〃
津久井仁一	北那須	黒磯神社総代	宮司	月江 智寛	若林正次郎	上都賀	八幡宮役員	宮司	金子 信彦
					新井 正夫	下都賀	鹿島神社役員	宮司	大和田 登
					大塚 利一	下都賀	鷲宮神社役員	宮司	菱沼 至広
					峯 清吉	下都賀	愛宕神社総代	宮司	小嶋 教敬
					静井 太一	下都賀	愛宕神社総代	〃	〃
					田波 久男	下都賀	神明宮役員	〃	〃

浄財奉納にて受賞された方々

稲葉 国光	下都賀	天満宮役員	宮司	刀川	清満	伊澤	範夫	下都賀	高椅神社役員	宮司	角田	修
島田 重郎	下都賀	磐裂根裂神社氏子	〃	〃	〃	亀田	篤夫	安佐	星宮神社役員	宮司	新井	正城
山中 政信	下都賀	磐裂根裂神社役員	〃	〃	〃							



(三百三十万)
日高 盛雄
鏡神社氏子(小山市)
宮司 栗原 千早



(五十万円)
須田 初江
網戸神社氏子(小山市)
宮司 久楽持浩司



(三十万円)
田村 邦男
稲荷神社氏子(栃木市)
宮司 林 唯元



(三十万円)
高田 辰一郎
八幡宮崇敬者(田沼町)
宮司 毛利 庸秋

齋藤 国一	塩谷	岩戸別神社崇敬者	宮司	齋藤	正洋
齋藤 均	〃	〃	〃	〃	〃
齋藤キヨシ	〃	〃	〃	〃	〃
手塚 貞夫	〃	〃	〃	〃	〃
手塚キヨコ	〃	〃	〃	〃	〃

金品奉納にて受賞された方々

石狛犬一対

河上 秋男

御嶽神社崇敬者(茂木町)
宮司 小堀 修一



石狛犬一対・参道敷設(七十米)

菅原神社氏子中(茂木町)

宮司 小堀 修一



石恵比寿大黒像

佐藤忠雄・テル

御霊神社氏子(益子町)
宮司 横山 仁美



石亀

佐藤啓司・ユキ子

亀岡八幡宮氏子(益子町)
宮司 横山 仁美



子供神輿及び台車

吉澤 幸

沢湯泉神社氏子(矢板市)
宮司 野崎 正之



湯泉神社改築

湯泉神社氏子一同

豊田湯泉神社氏子(矢板市)
宮司 野崎 正之



拝殿改修工事

(株)野口建築工業

伯耆根神社氏子(塩谷町)
宮司 和氣 義廣





手水舎新築

瀧尾神社氏子(今海市)
宮司 増測 文男



石灯笼一對
齋藤通
小島延雄

加茂神社氏子(塩谷市)
宮司 和氣 義廣



畳替

大橋勝成

瀧尾神社氏子(今海市)
宮司 増測 文男



組立倉庫

上澤辨造

高麗神社崇敬者(鹿沼市)
宮司 永田 弘幸



社務所改修・本殿上屋改修

黒川神社役員・総代(日光市)
宮司 吉田 健彦



水盤

(有)宇梶工務店

楡木神社氏子(鹿沼市)
宮司 金子 信彦





石鳥居
辰巳建設(株)
川島保二
太平山神社崇敬者(栃木市)
宮司 小林一成



御簾・壁代一式
若林政夫
神明宮氏子(鹿沼市)
宮司 金子信彦



狐像一對
辰巳建設(株)
川島実
太平山神社崇敬者(栃木市)
宮司 小林一成



真榊一對
鈴木木陽
神明宮氏子(鹿沼市)
宮司 金子信彦



大鈴縄
中田良男商店
中田富雄
太平山神社崇敬者(栃木市)
宮司 小林一成



八坂神社仮殿新築
八坂神社氏子
(宇都宮市)
宮司 和田義



石灯笼一對
橋本虔造
雷電神社氏子(石橋町)
宮司 宇賀神義宣

